

万博と IR カジノの建設工事

昨日 14 日 13 時から開催された大阪市会・万博推進特別委員会を傍聴した。途中 16 時までの 3 時間の傍聴だったが、怒りが膨張するとともに参考になることも多かった。まず、参考人の万博協会の岩田・経営企画室長から会場建設費 500 億円の上振れについての説明があった。コスト削減を強調していたが、大屋根（リング）などの規模縮小は検討もしていない。増額は今回が最後であると、最後に述べてはいたが。さて、この先どうなることやら。

休憩をはさんで質疑に移ったが、維新委員は会場建設費増額を受け入れると表明する一方、万博に対して不安をあおるような報道があると発言。自民委員は増額を精査した時期が遅すぎると指摘し、万博協会のリスクマネジメントに問題を投げかける。自民・くらし委員は、万博中止の場合の「対応」について質問した。

写真は公明委員が配布した「工事車両の通行ルートについて」「各事業（万博・IR・インフラ）のピーク日の工事車両台数について」である。委員の質疑を聞きながら、目はこの資料に集中した。とりわけ注目したのが、万博と IR の工事車両台数の図である。ズーと見ていると、夢洲に至る工事車両の渋滞の酷さが目に浮かんでくる。

工事車両（万博・IR・インフラ）のルート配分は北コースが大半であり、今度も渋滞の激しい此花区梅香交差点などの問題が指摘された。

各事業のピーク日の工事車両台数の図を見ていると、来年 2024 年 10 月には、1 日に合計 3436 台となっている。その内訳にも注目した。万博関連が 2310 台、IR 車両 726 台、インフラ整備 400 台となっている。

この図に注目したのは、IR 車両が来年 2024 年 8 月から急増していることである。10 月 24 日の大阪市との団体協議で、IR 推進局は来年夏ごろから工事着手と述べていたが、工事車両の急増はそれを裏付けるものだ。その後も工事車両は増えており、万博開催予定 1 ヶ月前の 2025 年 3 月には万博車両は減っていくが、IR 車両は 955 台となっている。

退席する直前の公明委員の質疑にも注目した。万博を優先すべきであり、万博の準備が逼迫しているので、IR 工事は万博終了まで待つべきでないかと質問。これに対して、横山市長は万博も IR 見重要な事業なので、最大限調整して適切な対策をとっていくと答弁した。この点については、24 日締切の陳情書にも書いていきたい。

（2023 年 11 月 15 日）

